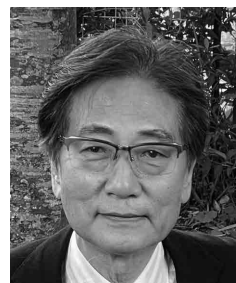


時代の変化に適応して

邊 龍 雄

(株式会社中原商店)
び ょ ん び ょ ん 舎
取 締 役 会 長



父は18歳の頃、夢を追求め韓国済州島から日本に渡り、大阪、尼崎と転々としながら、1946年（昭和21年）神戸の長田区で、個人商店として靴の製造販売業を営んでいました。私が生れる2年前のことです。岩手県二戸市の石切所に親戚を訪ね行商に行っている間に経営状態が悪化し、1950年靴の製造販売業を廃業します。石切所に残り「かりんとう」菓子の製造販売を始めますが後に人口の多い盛岡に職場兼住居を移します。2枚5円で販売していた「かりんとう」で家族7人を支え暮らすことが厳しく1955年に廃業します。その後盛岡駅前北上川沿い平戸に在った廃品回収の間屋を1円で買い取り資源回収業を始めます。私が小学1年生の頃でした。日本の経済は活気が出始め、廃品回収業も上向き軌道にのり始めました。北上川沿いの狭いストックヤードを手放し盛岡駅裏側の土地、さらに盛岡インター付近の土地を購入し順調に成果を上げていました。

<教育は一生の財産>

父は済州島から日本に渡り学校教育を受けた事がなく文字の読み書きが出来ず、その悔しさをバネに独学で読み書きを学んだ話を何度も耳にしました。父は「教育は一生の財産、お父さんの目の玉が黒いうちは、いくらでも応援するぞ、目標を持って頑張れ」と事あるごとに聴かされていました。兄は脳外科医になり私は税理士を目指しました。税理士試験3科目に合格した直後、多種類の金属を分別加工処理する仕事の原因の一つと言われる難病、筋萎縮性側索硬化症を発症し3年の命と宣告されたのです。父の体力では事業を継続する事が不可能であると家族で話し合いました。税理士の国家試験を心の片隅に置き現状の全てを受け入れ、父への感謝の思いで鉄スクラップ加工処理業を引継ぐことにしました。

<個人企業を法人化>

1983年個人企業である中原商店を株式会社中原商店に組織変更し、代表取締役ウオンジュビョンに入院中の父邊致三に就任して頂きました。社名の「中原」は邊家の日本名で韓国「原洲邊」の「原」をルーツに「中原」と祖父が改名しました。「原」は「中核」を成すと言う意味があると父から教えられそのまま法人名としました。

<廃品回収業は原料産業>

鉄スクラップ加工処理業の本質は、鉄・非鉄金属等を再生資源と捉え原料産業あると理解し、解体業・鉄工場・電機工事等に業種を分類し徹底した営業活動をしました。結果、大きな物件の契約に結び付き業績を伸ばす事ができました。

<円高不況に陥る>

1985年9月22日、米国で為替レートの安定化策として開かれたプラザ合意による急激な円高の影響を受け、低価格の輸入スクラップに太刀打ちできない状況に陥り業績は最悪の状況になります。結果、鉄スクラップ加工処理業は円高による構造不況業種に指定され国の救済措置として事業転換を促すための臨時措置法が牽かれました。円高構造不況の中で事業を継続することに限界を感じ事業転換の決断をしました。

<新規事業を模索>

国道46号線沿い盛岡インターに近い好立地のこの場所で何が出来るか、当時日本の外食産業はピークを迎え活気がありました。立地条件・経済性・食と芸術、そして地域社会に貢献できる外食産業を新規事業として選択し円高特定中小企業者事業転換等臨時措置法の適用を受ける決断をし、即事業計画を立案しました。

<計画立案>

父の言葉を思い出します。「教育は一生の財産、銀行は人に金を貸す」と。飲食の経験が全く無い私に融資して頂くために如何にあるべきか。先ずは自分を信じること「私にも必ず出来る」と強い信念で新規事業計画の立案をすることでした。そして基本となる知識を得るために岩手県が主催する外食産業のセミナー「フードサービス業の現場管理技術」に参加し調理師学校に通い、チャンスを得るために盛岡市が主催するニッポン麺サミットに参加、その翌年日本橋高島屋大いわた展にチャレンジしました。この間にお店のテーマを「遊」と決め、コンセプトを考えながら数値計画を立て商工中金盛岡支店に融資の申請をしました。結果融資決定です。その時の新井課長の言葉が忘れられません。「事業計画の審査の結果、岩手県事業転換第一号の承認を致します。保証人と担保の力は二割、八割は社長と奥様の努力です」。力強く勇気と希望が湧く言葉に明るい未来を感じた瞬間でした。1987年11月6日「ぴょんぴょん舎」をオープンしました。

<理念・価値観の構築>

お客様の為に如何あるべきか、何をしなければならないか、基本理念を食の本質とレストランの語源から探りました。「人に良い」と書く「食」、「回復取り戻す」の意味を持つレストランの語源「レスタウラーレ」、この二つの意味を音楽や絵画、食空間がもたらす「ホッと癒される世界」にまで拡大解釈し、理念・価値観を組み立てました。「森の植物達と人間は呼吸し合う関係にある」。この関係こそ仕事をデザインする時に最も重要なヒントでした。「物の世界と人の世界の調和を構築する」を価値観のトップに掲げました。美しい町、盛岡のために食と店舗デザインを通して如何に貢献できるか、理念・価値観を通して考えました。結果として盛岡冷麺が地元で評価され全国に広がり、食空間として店舗デザイン賞、グットカンパニー賞などを受賞させて頂きました。

<仕事は科学的に芸術的に>

アメリカで経営学を学んだ友人が「経営学に芸術が必修だった」と呟いた時、目から鱗が落ちる思いでした。人の心を捉え惹きつける商品製品は、科学的であり芸術的であることを教えて頂きました。科学と芸術、美意識に基づいた価値ある商品・サービスを創造し市場に提供した時に心が惹かれ、お客様の信頼を得るブランドとなることを学んだのです。

「食」を提供するレストランの語源レスタウラーレ「回復」の持つ意味を最大の価値として時代の変化に適応させながら、ぴょんぴょん舎独自の力を創造し続け地域社会に貢献できる企業で在りたいと思うのです。

「信念は願いを果たす原動力」 実業家C・M・ブリストル